

授業科目 解剖学実習 I

【担当教員名】 奈良 貴史、澤田 純明、山口 康昭		対象学年	1	対象学科	理学・作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 交連骨格標本、分離骨標本を用いて、人体、特に骨格系を立体的に理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の個々の骨を見分け、身体のどこにどのような方向に位置しているかを説明できる。 2. 骨の全体の形・概観・大きさ・重さ・質感をよく理解する。 3. 骨の区分（体、端、縁、面など）を理解する。 4. 骨の各部分の形（突出物、くぼみ、孔など）を概説できる。 5. 各関節の構成を説明できる。 6. 骨格筋の名称、起始、停止、作用、支配神経を説明できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学実習 I の概要とオリエンテーション			1	実習
2	骨学実習 骨の形状・分類			1-2	実習
3	骨学実習 全身骨の配列			1-2	実習
4	骨学実習 頭蓋 顔面頭蓋			2-5	実習
5	骨学実習 頭蓋 脳頭蓋			2-5	実習
6	骨学実習 体幹の骨 脊柱			2-5	実習
7	骨学実習 体幹の骨 胸郭			2-5	実習
8	骨学実習 上肢の骨 上肢帯の骨 上腕の骨			2-5	実習
9	骨学実習 上肢の骨 前腕の骨 手の骨			2-5	実習
10	骨学実習 下肢の骨 下肢帯の骨 大腿の骨			2-5	実習
11	骨学実習 下腿の骨 足の骨			2-5	実習
12	筋学実習 頭頸部の筋			2-6	実習
13	筋学実習 体幹の筋			2-6	実習
14	筋学実習 上肢の筋			2-6	実習
15	筋学実習 下肢の筋			2-6	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学	奈良 勲、鎌倉矩子	医学書院	2010・6,300円
参考書		骨学実習の手引き		南山堂	2001・3,500円
その他の資料					
【評価方法】 出席状況、提出物、筆記試験の総合評価			【履修上の留意点】 実習室では白衣を着用すること。		